

（ 肢体不自由児心理・指導法 （R5認定講座） ）

<開講日>

1日目: 令和5年9月30日(土)

2日目: 令和5年10月1日(日)

<開講場所>

加東キャンパス

<科目の概要>

以下の内容について肢体不自由児を中心としながら、知的障害児・病弱児を包含しての講義を行う。①身体
の構造と機能、肢体不自由の病理、②動作不自由に対する指導、③運動障害についての理解と援助、④
ICFと目標指向的アプローチ、⑤肢体不自由児教育と療育の歴史、⑥肢体不自由教育における教育課程の
編成、⑦特別支援教育における諸計画と実態把握、⑧二次的問題の予防と社会資源の活用

<時間割表>

実施日	実施時間	講義、演習、実験、実習、実技等の実施計画
1日目	9:30～16:50	オリエンテーション、講義①②③④⑤⑥⑦⑧
2日目	9:30～17:00	オリエンテーション、講義⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮、試験、アンケート

第1日 講師（ 石倉健二 ）

区 分	時 間	内 容
	9:30～9:40	オリエンテーション
講義①②	9:40～11:10	<身体構造と機能、肢体不自由の病理> 内容: 運動器と肢体不自由、筋・骨格系、神経系、神経系の疾病と障害、神経系以外の疾病と障害、運動に関する発達性の不調、などについて人体模型等を用いながら解説する。
講義③④	11:20～12:50	<動作不自由に対する指導> 内容: 自立活動における指導の手立てについて、動作法、などについて一部に演習も取り入れながら解説する。
講義⑤⑥	13:40～15:10	<運動障害についての理解と援助> 内容: 基本的介助法、医学的リハビリテーションと運動機能訓練、義肢装具、車イス、座位保持装置、などについて一部に実物も用いながら解説する。
講義⑦⑧	15:20～16:50	<ICFと目標指向的アプローチ> 内容: ICFの基本事項、ICFの枠組みを用いた対象児についての理解や情報収集、ICFの枠組みを取り入れた目標設定と計画の立案、ICFの枠組みを用いた目標と手立ての整理、などについて事例をもとに解説する。

第2日 講師（ 石倉健二 ）

区 分	時 間	内 容
	9:30～9:40	オリエンテーション
講義⑨⑩	9:40～11:10	<肢体不自由児教育と療育の歴史> 内容: 欧米における近代以前の障害児教育、日本における近代以前の障害児教育、戦中と終戦後の障害児教育、肢体不自由児の療育の歴史、などについて解説する。
講義⑪⑫	11:20～12:50	<肢体不自由教育における教育課程と自立活動> 内容: 肢体不自由教育と特別支援教育を取り巻く現状、肢体不自由教育の教育課程、自立活動の意義と内容、自立活動の進め方、自立活動の具体的な指導内容の例、などについて解説する。
講義⑬⑭	13:40～15:10	<特別支援教育における諸計画と実態把握> 内容: 指導計画と個別の指導計画、個別の教育支援計画、実態把握、肢体不自由児の実態把握に必要なこと、などについて解説する。
講義⑮	15:20～16:05	<二次的問題の予防と社会資源の活用> 内容: 児童生徒の健康管理、二次障害とその対応、地域生活のための社会資源、児童生徒の社会資源を理解するために、関係者の健康管理、などについて解説する。
	16:15～17:00	試験
		アンケート

※講師の都合により、多少時間を変更する可能性がありますので、ご了承ください。

<受講者の方へ>

・レポート課題は初日に提示し、2日目に提出してもらいます。その際、インターネットのホームページ上からの引用は原則的に認めていません。あらかじめ、肢体不自由児への指導法や援助法などに関する複数の資料や本を手元に準備しておいてください。